創価大学大学院
文学研究科

国際言語教育専攻

学生募集要項

○　第Ⅰ期　平成２０年１０月１８日（土）実施

○　第Ⅱ期　平成２１年　２月１７日（火）実施

平成２１年４月開設

教育目標・目的

２１世紀は、国際的な大文化交流時代を迎え、双方向的な異文化理解とともに、双方向的な第二言語習得の活性化が、ますます重要になってきています。その前提となるのが、第二言語教育者の育成ならびに、相互的な第二言語教育者の交流・交換です。

本専攻では、日本語教育専修、英語教育専修の二専修を設置し、高度な教授技能と専門知識を有する第二言語教育者の育成に取り組みます。

日本語教育専修では、経験豊富な教員の指導の下、最も効果的な教授を可能とする実践的な日本語教師を養成します。

英語教育専修では、教育学（英語教育）の学位を有する経験豊富な教員が英語での指導を行い、日本にいながらにして、留学と変わらぬ環境を提供することにより、実践的な指導力を備えた英語教員を養成します。

本専攻の教育・研究システム上の特色

日本語教育専修、英語教育専修の両専修に共通する基礎科目として、コミュニケーション理論ならびに第二言語習得理論を開講し、第二言語教育にかかわる理論的な基礎を学びます。

その上で、それぞれの専修の中で開講されている基礎科目・専門科目・演習科目・実習科目を学び、研究を進めていきます。

主な進路

主に国内外での言語教育機関で活躍する日本語教師、英語教師を想定しています。また、学部で既に「国語」「英語」の一種の教員免許状を取得した方には、専修免許状の取得ができるように文部科学省に申請中です。

また、研究職を目指す方には、博士後期課程（文学研究科英文学専攻、同人文学専攻）への進学も考えられます。

専攻の概要

〔名　　称〕　文学研究科国際言語教育専攻
（日本語教育専修）（英語教育専修）

〔課　　程〕　修士課程

〔入学定員〕　１５名（両専修合計）

〔修了要件〕　２年以上在学して、３２単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

〔取得学位〕　修士（教育学）

担当教員　（専任教員。氏名、役職、保有学位等）

【日本語教育専修】
- 蓮沼昭子　教授　文学修士
- 石川惠子　教授　文学修士
- 山本忠行　教授　文学修士
- 山岡政紀　教授　博士（言語学）
- 守屋三千代　教授　文学修士

【英語教育専修】
- Robert Richmond Stroupe　教授
  Phd in Administrative Policy and Planning (Education)
- Edwin Koon Wa Wong Aloiau　教授　博士（教育学）
- 藤本和子　准教授　博士（英文学）
- 尾崎秀夫　講師　Phd in Foreign Language Education
- Laurence MacDonald　講師　Phd in Education Policy

入　試　要　項

文学研究科　国際言語教育専攻：一般入学試験（第Ⅰ期）

1．募集研究科・専攻・募集定員

研　究　科	専　　攻	課　　程	募集定員
文学研究科	国際言語教育専攻 （日本語教育専修）（英語教育専修）	修士課程	10 名程度

※第Ⅰ期・第Ⅱ期合計の募集定員は 15 名です（日本語教育専修と英語教育専修の合計です）。

2．出願資格

(1) 大学を卒業した者、または平成 20 年度卒業見込みの者。
(2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者。
(3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了または平成 20 年度修了見込みの者。
(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者。
(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
(6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
(7) 文部科学大臣の指定した者。
(8) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、当該研究科委員会において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。
(9) 当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 21 年 3 月で 22 歳に達した者。

※(4)から(9)の資格により出願を希望する者について
①出願時に資格審査を行います。
②所定の出願書類に加えて「出願資格認定申請書」（G票）、「出願資格認定申請理由書」（H票）を提出して下さい。

※出願ができる外国人受験者の定義について
①日本国籍を有しない者であって、かつ、日本国における永住資格を有しない者。
②出入国管理及び難民認定法において、本学入学に支障のない在留資格を有する者。

3. 出願方法

志願者は、出願に必要な書類を取り揃え、入学検定料を振り込みした後、本学教務部教務第２課宛てに、窓口提出をするか郵送をもって出願して下さい。

4. 出願期間・場所

(1) 出願期間　平成 20 年 9 月 8 日(月) ～ 12 日(金)
（窓口時間帯：月～金 10:00～12:00）
郵送の場合：9 月 12 日(金)必着とする。

(2) 出願場所　教務部教務第２課大学院係
郵送の場合：　〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236
創価大学 教務部教務第２課大学院係　宛
(TEL:042-691-2203)

5. 出願書類・検定料

(1)入学願書	本学所定の用紙（A票・B票）を使用すること。
(2)受験票・写真カード	本学所定の用紙（C票・D票）を使用すること。
(3)成績証明書	出身大学で申請すること。 （本学在学生は証明書自動発行機で発行ができます）
(4)卒業（見込）証明書	出身大学で申請すること。 （本学在学生は証明書自動発行機で発行ができます）
(5)受験票送付封筒（定型長 3 封筒）	住所・氏名明記、350 円分の切手を貼付すること。
(6)合格者一覧送付封筒（定型長 3 封筒）	(5)と同様。（※送付を希望する場合のみ各自で用意）
(7)検定料	33,000 円。 同封の振込用紙を使用し、銀行で振り込むこと。 振込金受領書[控]を出願時に提出すること。

※ A票の「修士論文題目」の欄は記入しなくてよい。

〔英語教育専修出願者へ〕　**※必須事項**

- 本人が作成した英語によるエッセイを出願書類として添付すること。テーマ等は以下の通り。
  - ○ テーマ：How does this program help you achieve your overall professional goals as a language educator?
  - ○ 分量：Ａ４で２ページ以内。ダブルスペース（行間２行）とします。
  - ※ 詳細は次ページ参照。
- 英語能力証明書類（TOEFL もしくは IELTS）を出願書類として提出すること（コピーで可）。

International Language Education Program: TESOL - Personal Statement

Please provide a personal statement describing your educational objectives. The personal statement gives you the opportunity to explain your reasons for pursuing graduate study and to express your thoughts clearly in an organized and focused way.

Please answer the following question regarding the Graduate Program in International Language Education: TESOL:

How does this program help you achieve your overall professional goals as a language educator?

You may wish to address:

- why you are applying for the International Language Education (ILE) program;
- how the ILE program will relate to your long-range career objectives;
- what personal or "non-academic" qualities you will contribute to the learning environment in this program;
- what your research interests in language education may be; and / or,
- what personal experiences have influenced your intellectual development and future goals with respect to the ILE program.

The personal statement should:

- include your name and a title;
- not exceed 1,000 words; and
- be typed double spaced (Times New Roman 12).

Please carefully revise and edit your statement as all qualities of good writing including organization, structure, grammar, and spelling will be considered.

6. 出願上の注意事項

(1) 出願書類を郵送する場合は、前記各出願書類を同封し、出願期間中に本学に到着するよう書留郵便で送って下さい。
(2) 出願書類のうち、一ヶ所でも不足または不備がある場合には、受け付けませんので必ず確認して提出して下さい。
(3) 出願書類を提出した後の研究科・専攻の志望の変更は認めません。
(4) 締め切り後は、いかなる理由があっても受け付けません。
(5) 一度提出した書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

7. 選考試験期日・会場

平成 20 年 10 月 18 日(土)

※試験開始 20 分前までに試験会場（文系Ａ棟）に集合して下さい。試験教室は当日、文系Ａ棟ロビーに掲示いたします。

8. 選考試験科目・時間帯

●文学研究科　国際言語教育専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
日本語教育専修	外国語	出願時に選択	日本人は英語または中国語のうちから１科目選択 外国人は日本語	10：30～12：00
	専門科目	—	日本語学・日本語教育に関する問題	13：00～14：30
	面接	—	面接	15：00～

※ 社会人には、外国語の試験を課さない。（社会人の定義：出願の段階で、４年生大学卒業後満４年以上経過している人）

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	面接方法	
英語教育専修	外国語	—	書類審査 （出願書類のエッセイや、英語能力証明書類）	—
	面接	—	英語による授業を理解し、自身の見解を十分に表明できるだけの英語力を有しているかどうかを面接試験によって判定をする。 （英語で実施）	10：00～12：00

9. 合格発表

平成20年10月24日(金)　午前11時

(1) 合格者は、本学大学院の掲示板に発表します。また、申し出により掲示内容の複写を送付致します。

(2) 合格者には合格通知書を送付します。

(3) 合否に関する、電話・郵便での問い合わせには一切応じません。

10. 入学手続

合格者は、所定の期間内に入学手続・納入をして下さい。ただし詳細については、合格発表の際に文書で通知します。

(1) 第1次入学手続

納入期間：平成20年11月4日(火)～11月7日(金)

入学金　納入額	対 象 者
123,000円	本学学部卒業者、本学別科修了者及び本学通信教育部の卒業生及び本学情報システム先端技術講座修了生
246,000円	上記以外

(平成20年度参考額)

(2) 第2次入学手続

第2次手続書類は、第1次手続完了者に対して、2月に郵送します。

納入期間：平成21年2月16日(月)～2月27日(金)

項　　目	一括払い	2回分割払い	
	入学手続時	入学手続時	後期納入時
授　業　料	500,000円	250,000円	250,000円
施設設備費	100,000円	50,000円	50,000円
保　健　費	8,000円	4,000円	4,000円
学生教育研究災害傷害保険料	2,380円	2,380円	——
合　　計	610,380円	306,380円	304,000円

(平成20年度参考額)

(3) 注意事項

①上記の納入期間内に手続を行わない場合は、合格を取り消します。

②授業料等は、手続期間内に必ず完納して下さい。納入回数は、1回払い（入学手続時に一括納入）又は、2回分割払い（前期・後期に分割納入）が選択できます。

③保健費は、実情に合わせて改定されることがあります。
④第１次手続後、事情により入学を辞退する場合があっても入学金は返還しません。また、第２次手続後、事情により入学を辞退する場合は、入学金を除く授業料等を返還します。但し、入学式の前日までに届け出のあった場合に限ります。
⑤合格者は、日本学生支援機構予約奨学生に出願することができます(留学生を除く)。

文学研究科　国際言語教育専攻：一般入学試験（第Ⅱ期）

1．募集研究科・専攻・募集定員

研　究　科	専　　攻	課　　程	募集定員
文学研究科	国際言語教育専攻 （日本語教育専修）（英語教育専修）	修士課程	5名程度

※第Ⅰ期・第Ⅱ期合計の募集定員は15名です（日本語教育専修と英語教育専修の合計です）。

2．出願資格

3．出願方法

（第Ⅰ期）と同様です。（第Ⅰ期）の募集要項を確認して下さい。

4．出願期間・場所

(1) 出願期間　平成21年1月6日(火) ～ 9日(金)
（受付時間帯：火～金 10:00～16:45）
郵送の場合：1月9日(金)必着とする。

(2) 出願場所　教務部教務第2課大学院係
郵送の場合：　〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
創価大学 教務部教務第2課大学院係　宛
(TEL:042-691-2203)

5．出願書類・検定料

6．出願上の注意事項

（第Ⅰ期）と同様です。（第Ⅰ期）の募集要項を確認して下さい。

7．選考試験期日・会場

平成21年2月17日(火)

※試験開始20分前までに試験会場（文系Ａ棟）に集合して下さい。試験教室は当日、文系Ａ棟ロビーに掲示いたします。

8. 選考試験科目・時間帯

（第Ⅰ期）と同様です。（第Ⅰ期）の募集要項を確認して下さい。

9. 合格発表

平成21年2月24日(火)　午前11時

(1) 合格者は、本学大学院の掲示板に発表します。また、申し出により掲示内容の複写を送付致します。
(2) 合格者には合格通知書を送付します。
(3) 合否に関する、電話・郵便での問い合わせには一切応じません。

10. 入学手続

合格者は、所定の期間内に入学手続・納入をして下さい。ただし詳細については、合格発表の際に文書で通知します。

(1)　入学手続期間：平成21年2月25日(水)～3月4日(水)

入学金　納入額	対 象 者
123,000円	本学学部卒業者、本学別科修了者及び本学通信教育部の卒業生及び本学情報システム先端技術講座修了生
246,000円	上記以外

（平成20年度参考額）

項　　目	一括払い	2回分割払い	
	入学手続時	入学手続時	後期納入時
授　業　料	500,000円	250,000円	250,000円
施設設備費	100,000円	50,000円	50,000円
保　健　費	8,000円	4,000円	4,000円
学生教育研究災害傷害保険料	2,380円	2,380円	——
合　　計	610,380円	306,380円	304,000円

（平成20年度参考額）

(2) 注意事項

①上記の納入期間内に手続を行わない場合は、合格を取り消します。
②授業料等は、手続期間内に必ず完納して下さい。納入回数は、1回払い（入学手続時に一括納入）又は、2回分割払い（前期・後期に分割納入）が選択できます。

③保健費は、実情に合わせて改定されることがあります。
④第１次手続後、事情により入学を辞退する場合があっても入学金は返還しません。また、第２次手続後、事情により入学を辞退する場合は、入学金を除く授業料等を返還します。但し、入学式の前日までに届け出のあった場合に限ります。

カリキュラム・授業科目の概要

【文学研究科　国際言語教育専攻】

≪日本語教育専修≫　　●修士論文作成者：「修論作成者」　　●リサーチペーパー作成者：「ＲＰ作成者」

科目区分		科目名	単位	制限など	履修年次 M１前期	M１後期	M２前期	M２後期	分類	修了要件	備考
専攻共通基礎科目		コミュニケーション研究Ⅰ	2		○				必修科目	４科目８単位	日本語教育専修／英語教育専修共通
		コミュニケーション研究Ⅱ	2			○					
		第二言語習得理論Ⅰ	2		○						
		第二言語習得理論Ⅱ	2			○					
日本語教育専修科目	基礎科目	日本語教育研究法Ⅰ	2		○					４科目８単位	
		日本語教育研究法Ⅱ	2			○					
		日本語教授法Ⅰ	2		○						
		日本語教授法Ⅱ	2			○					
	演習科目（研究指導）	現代日本語学演習ＡⅠ	2	★	○		(○)		選択必修科目	４科目８単位	
		現代日本語学演習ＡⅡ	2	★		○		(○)			
		現代日本語学演習ＡⅢ	2	★	○		(○)				
		現代日本語学演習ＡⅣ	2	★		○		(○)			
		現代日本語学演習ＢⅠ	2	★	○		(○)				
		現代日本語学演習ＢⅡ	2	★		○		(○)			
		現代日本語学演習ＢⅢ	2	★	○		(○)				
		現代日本語学演習ＢⅣ	2	★		○		(○)			
		日本語教授法演習Ⅰ	2	★	○		(○)				
		日本語教授法演習Ⅱ	2	★		○		(○)			
		日本語教授法演習Ⅲ	2	★	○		(○)				
		日本語教授法演習Ⅳ	2	★		○		(○)			
	専門科目	言語教育政策研究	2			○		(○)	選択科目	【修論作成者】８単位 【ＲＰ作成者】８単位	
		日本語教材研究Ⅰ	2		○		(○)				
		日本語教材研究Ⅱ	2			○		(○)			
		日本語語彙表現研究Ⅰ	2		○		(○)				
		日本語語彙表現研究Ⅱ	2			○		(○)			
		現代日本文学研究Ⅰ	2		○		(○)				
		現代日本文学研究Ⅱ	2			○		(○)			
	演習科目	日本語教授法実践演習Ⅰ	3	◆	○						
		日本語教授法実践演習Ⅱ	3	◆		○					
		日本語教授法実践演習Ⅲ	3	◆			○				
	実習科目	日本語教育実習	1	◆			○				

＜注意＞

「◆印」：日本語教育専修以外の学生の履修は不可

「★印」：隔年開講科目

【文学研究科　国際言語教育専攻】

≪英語教育専修≫　　●修士論文作成者：「修論作成者」　　●リサーチペーパー作成者：「ＲＰ作成者」

科目区分		科目名	単位	制限など	履修年次 M１前期	M１後期	M２前期	M２後期	分類	修了要件	備考
専攻共通基礎科目		コミュニケーション研究Ⅰ	2		○				必修科目	４科目８単位	日本語教育専修／英語教育専修共通
		コミュニケーション研究Ⅱ	2			○					
		第二言語習得理論Ⅰ	2		○						
		第二言語習得理論Ⅱ	2			○					
英語教育専修科目	基礎科目	第二言語教育の研究方法	2		○					７科目14単位	
		第二言語教授法Ⅰ	2			○					
		第二言語教授法Ⅱ	2				○				
		社会言語学と教育	2		○						
		外国語としての英語教育における言語と文化	2			○					
		学術・専門分野のための英語	2				○				
		言語教育のための英文法	2				○				
	演習科目	英語教育実践演習Ⅰ	2	◆				○		２科目４単位	
		英語教育実践演習Ⅱ	2	◆				○			
	演習科目（研究指導）	英語教育研究演習Ⅰ	2	◆			○		選択必修科目	２科目４単位	研究コースは必修
		英語教育研究演習Ⅱ	2	◆				○			
		英語指導法教材開発演習	2	◆				○		１科目２単位	実践コースは必修
	専門科目	シラバス・カリキュラム作成	2		○		(○)		選択科目	【修論作成者】１科目２単位 【ＲＰ作成者】２科目４単位	
		言語テストと評価	2			○		(○)			
		テクノロジーと第二言語教育	2		○		(○)				
		言語教育のための発音	2		○		(○)				
		言語教育者のための教師教育と自己開発	2			○		(○)			
		中等英語教育	2			○		(○)			
		大学院生のためのライティングスキル	2	◆	○						

＜注意＞

「◆印」：英語教育専修以外の学生の履修は不可

「★印」：隔年開講科目

※「研究コース」と「実践コース」について

「研究コース」：修論作成者、「実践コース」：ＲＰ作成者とする。

授　業　科　目　の　概　要

（文学研究科国際言語教育専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通基礎科目		コミュニケーション研究Ⅰ	対人的コミュニケーションに関する基礎文献、具体的にはGriceの協調の原理，Leechの語用論の原理群，Searleの発話行為論，Sperber & Wilsonの関連性理論，Brown & Levinsonのポライトネス理論などの諸論考から、重要な部分を抜粋し、原著の英文のまま講読する。これをもとに、コミュニケーション成立のための諸条件について、各人の思索をもとに議論を深め、言語による対人コミュニケーションの本質を探究する。	
		コミュニケーション研究Ⅱ	前半５回は、Ⅰの文献講読の続き、及び整理・まとめを行う。後半１０回は、それまでの文献講読での知識をもとに、言語教授法におけるコミュニカティブ・アプローチや機能シラバスについての基礎理論について学ぶ。特に中級・上級の教室運営の中で、コミュニケーション重視の考え方をどう採り入れ、活かしていけばよいのか、日本語教育と英語教育の両面から討議し、検討する。	
		第二言語習得理論Ⅰ	第二言語習得研究の成果を概観し、第二言語教育に対する示唆について考察する。初めに初期の対照分析と誤用分析から中間言語研究へと至る経緯、及びその成果と欠点を検討する。その後、中間言語の特質を社会、文化、ディスコース、及び心理言語学的側面から明らかにする。どのトピックを扱う場合も、教育への応用についての議論を含めることで、理論の追及のみに終わらないよう心がける。同時に、論文やリサーチペーパー作成の際役立てられるよう、研究テーマとして選ぶことのできる題材を毎回適宜紹介する。	
		第二言語習得理論Ⅱ	第二言語習得に影響を与える、学習者の内面的要素と、指導という外面的要素の両方の観点から、第二言語習得の特質を考察する。扱われるトピックには、学習者の内面的要素として、第二言語習得における普遍文法へのアクセス、年齢、適性、動機等の個人差、学習ストラテジー等と第二言語習得の関係がある。これらについて考察した後、第二言語習得における教室指導の必要性、有効性について議論する。第二言語習得理論Ⅰと合わせ、修士論文やリサーチペーパーのトピックとなりうる研究課題の発見に努める。	
日本語教育専修科目	基礎科目	日本語教育研究法Ⅰ	日本語教育において問題となる、日本語の意味、文法、談話の分野の研究書や論文を読み、この分野の知見と分析方法を学ぶ。Ⅰでは、初級レベルの日本語教育で問題となるテーマが取り上げられる。授業は、テーマに関連する文献の精読と、それに基づく発表と討論により進められる。文献で明らかにされた事実を、現実の言語データによって批判的に検証する方法や、日本語教育への応用方法などについても、考察を広げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		日本語教育研究法Ⅱ	日本語教育において問題となる、日本語の意味、文法、談話の分野の研究書や論文を読み、この分野の知見と分析方法を学ぶ。Ⅱでは、中上級レベルの日本語教育で問題となるテーマが取り上げられる。授業は、テーマに関連する文献の精読と、それに基づく発表と討論により進められる。文献で明らかにされた事実を、現実の言語データによって批判的に検証する方法や、日本語教育への応用方法などについても、考察を広げる。	
		日本語教授法Ⅰ	初級の日本語教育の指導法と全体像を学ぶ。初級の代表的な文型積み上げ式の教材を取り上げ、学習項目の全てを細目まで洗い出し具体的にどのように教えるかを考察する。教材による、文型の配列に対する異なりや配慮、また、文法項目に対する重点の置き方の違いについても比較検討を加える。発音、表記、語彙の指導法については、学習者や学習環境による教材の扱い方の相違について研究する。	
		日本語教授法Ⅱ	目的別の中級教育の実際や、その教授法について学ぶ。中級の代表的な教材を軸に、多様化する中級の日本語教育の中で必要不可欠な表現文型、学習項目を取り出して検討し、その指導法を考察する。また、初級から中級へ移行する際に問題になる、より自然な日本語の習得をめざした、場面に応じた表現や語彙の使い分け、談話の構成及び予測、類推力の養成のための指導法、さらには中級の文章表現の指導法について研究する。	
	専門科目	言語教育政策研究	言語教育を社会的視点から捉える言語政策の考え方を学び、日本語教育を批判的に見ていく。具体的には明治以降の国語教育や外国語教育の歴史を踏まえつつ、戦前の日本がアジア各地で行った日本語教育や留学生教育はどのようなものだったのかを学ぶ。さらに、海外の言語教育政策と比較しながら、多言語・多文化共生社会に向かいつつある日本の現状を分析し、留学生や労働者だけでなく年少者や配偶者などへとますます多様化する日本語教育の置かれている状況、あるべき姿などを考察する。	
		日本語教材研究Ⅰ	国内外の初級日本語教科書をめぐる問題を考える。初級教科書は学習言語の基礎となるシラバスを提供し、かつ各教科書の学習目的等に応じ様々な考え方も提示する。まずこの点を分析・確認する目を養う。次に、日本語教科書は日本語の「自然さ」を満たし、信頼できるサンプルを提供する役目も持っている。この観点から現行の教科書を検討し、課題を分析する。望ましい日本語教科書とはどのようなものか考えながら、教師が既存の教材を活かし副教材を工夫して、いかにより良い学習に結びつけるかも考える。	
		日本語教材研究Ⅱ	近年は日本語教材開発が各国で盛んとなり、中でも視覚・視聴覚教材に注目が集まっている。また、日本語学習の大きな動機でもあるアニメやマンガなどの作品も、副教材として盛んに採用されている。こうした教材の多くは、現実の自然な日本語により近く、学習者にとって興味を引きやすく、理解も図りやすい点で有効だが、日本語の特性を考えた場合、その作成・採用には慎重を期する必要もある。認知言語学の最新の理論を援用しながら、増え続ける視覚的教材の現在の課題と今後のあり方を考えていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		日本語語彙表現研究Ⅰ	中級レベル以上の日本語教育で求められる語彙と表現について研究する。前半の授業では、基礎語彙・類義語・位相など語彙・意味論の理論的基礎を自分で説明できるようになることを目指す。したがって、毎回の発表を中心とした授業となる。後半の授業では、語と語の結びつきとしての連語（共起しやすい語や慣用表現を含む）や比喩表現などの修辞技法について考える。あわせて、基礎的なコーパス言語学の手法について理解できることを目指す。	
		日本語語彙表現研究Ⅱ	中級レベル以上の日本語教育で求められる語彙や表現について研究する。前半の授業では、コーパス言語学の手法について、コンピュータを用いた基礎的な作業が行えるようになることを目指す。したがって、実践的なコンピュータ操作を中心とした授業となる。続いて、テレビや印刷媒体の表現をなど実生活で観察される具体的表現を資料として取り上げて、コーパス言語学的な観点を加味しながら、さまざまな表現を説明できる観点を養う。したがって、後半の授業は演習的な発表も取り入れた授業となる。	
		現代日本文学研究Ⅰ	漱石・鴎外・芥川・谷崎・川端をはじめとする、現代日本文学の代表的な散文作品を数篇取り上げ、それぞれについて講述する。なお、毎年一人の作家もしくはひとつの文芸思潮を取り上げ、彼（ら）の目指した＜文学＞の内実とその特徴を理解できるように配慮する。とともに受講生が、日本語の持つ繊細な表現力や豊かなコノテーションの世界を感得できるよう留意する。	
		現代日本文学研究Ⅱ	毎回、現代日本文学の代表的な散文作品を一篇ずつ取り上げ、担当学生による発表と全員による討議により、各自の＜読み＞を深めていく。特に、資料収集・文献探査の方法及び資料の読解・活用法。更に「レジュメ」の作成も含む、発表作法や論文執筆の作法などを、学生の輪番による実習を通して習得させる。さらに各作家・作品の具体的な文章表現の味読を通して、作家の文体や日本語の表現技法や、日本人の持つ精神世界についても理解を深めることができるように努める。	
	演習科目	現代日本語学演習ＡⅠ	現代日本語の文法、談話の分野の最新の論文・研究書を批判的に読み、この分野の新しい知見や研究方法を学ぶ。同時に、学術論文の読み方と書き方、および基礎研究の日本語教育への応用方法についても学ぶ。１）話しことばと書きことば、２）日本語と外国語、３）文と談話、４）基礎研究とその言語教育への応用など、日本語の異なる側面を対照的観点から捉えている文献を選び精読・議論を中心に進める。	隔年開講
		現代日本語学演習ＡⅡ	基本的授業内容と授業方法は「現代日本語学演習ＡⅠ」に準ずる。Ⅰで学んだ知識の発展・深化を目指す。どのような条件を備えた研究が優れた研究として評価されるのかといった、研究に対する批評眼を養い、受講生が自らの研究を遂行する際の実践的知識や技術の養成を目指す。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		現代日本語学演習ＡⅢ	近年、現代日本語の話しことば、書きことばのコーパスが次々と構築され、インターネットや電子媒体を通じ、言語研究に活用されるようになってきた。この授業では、こうしたコーパスを用いて、生きた日本語を観察し、それを客観的に分析する方法を学ぶ。コーパスには、母語話者ばかりでなく、日本語学習者の会話や作文データが集積されたものもあるので、受講生は、自らの関心や研究目的に応じて、適切なデータを選択することが可能である。	隔年開講
		現代日本語学演習ＡⅣ	基本的授業内容と方法は「現代日本語学演習ＡⅢ」に準ずる。受講生は、Ⅲで学んだ知識や技術を活用し、自ら集めたデータの分析を進め、論文にまとめる。先行研究を正確に理解する能力とともに、先行研究の結論を自らの調査結果に基づき批判的に検証する能力の養成や、論文作成技術の修得を目指す。	隔年開講
		現代日本語学演習ＢⅠ	現代日本語文法のうち、格・態を中心とする構文論、テンス・アスペクト論、助詞・助動詞論などの諸分野において、現時点における定説を提示した過去の論考を講読し、批判・検討する。受講者による報告をもとに全員で問題点を討議する。これによって、日本語教育における文法指導において問題となる具体的な言語現象から研究テーマを発見し、それを論理的に考察していく視点、それを論文としてまとめる能力を養う。	隔年開講
		現代日本語学演習ＢⅡ	現代日本語文法のうち、格・態を中心とする構文論、テンス・アスペクト論、助詞・助動詞論などの諸分野における最新の論考を講読し、批判・検討する。受講者による報告をもとに全員で問題点を討議する。また、１年次生は自身の研究テーマを明確にし、その構想を発表する機会を与える。２年次生には、自身の論考を発表する機会を与える。いずれの場合も、受講者全員による批判的な討議によって、相互に深めていくことを目的とする。	隔年開講
		現代日本語学演習ＢⅢ	現代日本語文法のうち、主題論、モダリティ論、文論などの諸分野において、現時点における定説を提示した過去の論考を講読し、批判・検討する。受講者による報告をもとに全員で問題点を討議する。これによって、日本語教育における文法指導において問題となる具体的な言語現象から研究テーマを発見し、それを論理的に考察していく視点、それを論文としてまとめる能力を養う。	隔年開講
		現代日本語学演習ＢⅣ	現代日本語文法のうち、主題論、モダリティ論、文論などの諸分野における最新の論考を講読し、批判・検討する。受講者による報告をもとに全員で問題点を討議する。また、１年次生は自身の研究テーマを明確にし、その構想を発表する機会を与える。２年次生には、自身の論考を発表する機会を与える。いずれの場合も、受講者全員による批判的な討議によって、相互に深めていくことを目的とする。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		日本語教授法演習Ⅰ	直接法によって効率的・効果的な日本語教育を行うためには、どのような教え方が求められるのかを考える。グアンと山口喜一郎、パーマーと長沼直兄の教授法が日本語教育にどのような影響を与えたのか、論文や作成された教科書などをもとにその足跡をたどる。さらにオーディオリンガル・メソッドをはじめとする古典的な外国語教授法からコミュニカティブアプローチなどまで、その理論や考え方、および誕生の背景を考察し、その特徴や問題点を検証しながら、日本語教育にどう応用できるかをさぐる。	隔年開講
		日本語教授法演習Ⅱ	実際に日本語教育の現場に立ったときに対応するための実践的な知識・技術を学ぶ。学習者の日本語能力や学習効果をいかに効率的に正確に判定するか、到達目標や学習環境などに応じてどのように効果的な日本語教授プログラムを組み立て、具体的にどう実践していくかを考察する。具体的にはニーズ・アナリシス、コースデザイン、シラバスデザイン、評価法、チームティーチングなど教室活動に関わる諸問題を研究する。さらに教師の価値観や態度、研修のあり方などについて考える。	隔年開講
		日本語教授法演習Ⅲ	学習者の能力や目的、あるいは学習環境に応じて、どのような文型指導を行っていけばよいか、内容や目的に応じた文章表現指導はどうあるべきか、口頭表現力を伸ばすために自然談話分析をどのように応用していくか、聴解教育にはどのような種類やアプローチがあるのかなどをめぐり、教材作成や指導法の研究を行う。さらに日本語学習者の話したり書いたりした日本語の縦断的・横断的な観察と分析を通して、教え方・学び方のそれぞれの視点から授業や教材の改善策を探る。	隔年開講
		日本語教授法演習Ⅳ	多様な教育現場に対応する方策を考察する。留学生のための日本語教育をはじめ、難民や帰国者のための日本語教育、年少者の日本語教育、地域日本語教育、日本語学校や夜間中学、あるいは海外における日本語教育の実情などに関する論文や資料を読むとともに、ビデオ録画された日本語授業を分析したり、実際のさまざまな日本語教育の現場について観察・考察する。さらに短期滞在者や労働者のための日本語教育、専門教育や技術研修の日本語教育などについても研究する。	隔年開講
		日本語教授法実践演習Ⅰ	シラバスの立案、教案、教材等の作成の実践を通して、初級の日本語の教授力を身につける。文型積み上げ式の直接法の初級の授業を行うために教材のいくつか課の導入、課文、展開、練習、定着、発展等の各段階の手順を立案し、教案を作成する。作成した該当の授業を参与観察し、レポートをまとめ、授業の在り方を討議し、検討する。また、立案した教案を使って模擬授業を行い、相互に批評し合い、検討を加え指導力の向上を図る。	講義15回 演習15回
		日本語教授法実践演習Ⅱ	表現文型を中心にした中級の日本語指導の実際を学ぶ。中級教材のいくつか課について教案を作成し、該当の授業を参与観察し、レポートをまとめ、授業の在り方を討議し、検討をする。特に読解文の指導を中心におきながら、内容の解説や事柄の教育ではなく、中級の表現文型を使った表現力、文章力の養成を目的にする具体的な指導法を研究する。また、中級の語彙の習得及び適切な運用力培う指導法についても検討する。学習者の日本語能力の測定の方法、目的に応じたシラバスの策定等について考察する。	講義15回 演習15回

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		日本語教授法実践演習Ⅲ	３～４週間ずつ目的別の日本語教育を考案し、それをもとに教育現場の観察・評価を行う。聴解教育では音声のみの授業、映像を伴う教材の使用法、CALLを用いたインタラクティブな授業の進め方、作文教育では文型作文、会話文、要約文、論説文などの添削および指導法、口頭表現では能力に応じた指導法やプレゼンテーション、スピーチ、プロジェクトワークなどの指導のあり方、時事日本語では教材の選び方や教材化の方法・活用法などを学ぶ。さらに成人教育と年少者の教授法の違いなども考察する。	講義15回 演習15回
	実習科目	日本語教育実習	実際の教育現場に立ち、授業実践の経験を積む機会として本実習を行う。外国人日本語学習者のクラスを一定期間担当する。学習者のレベルやニーズの判定、授業計画の立案、教案作成、実際の授業へと進む流れを、一貫して担当者の監督指導のもとに行う。行った授業に対し、担当者と受講者による論評をもとにフィードバックし、問題点を明確にして改善を図る。	集中

		研究指導	（概要） 日本語教育の実践に関わる現代日本語研究、並びに日本語教授法研究について、修士論文またはリサーチペーパー執筆のための研究法、論文執筆法の指導を行う。 （１．蓮沼昭子） 現代日本語文法のうち、①条件文をはじめとする複文構造、②副詞・接続詞、④文末モダリティ形式、⑤取り立て詞などに関する構文論のテーマを中心とした研究指導を行う。 （２．山岡政紀） 現代日本語文法のうち、①格・態を中心とする構文論、②テンス・アスペクト論、③助詞・助動詞論、④文論、⑤主題論、⑥モダリティ論などに関する構文論のテーマを中心とした研究指導を行う。 （３．山本忠行） オーディオリンガル・メソッドからコミュニカティブアプローチに至る様々な言語教授法の理論をもとに、日本語教育におけるより効果的な文法指導、音声指導のあり方をめぐる研究指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学研究科国際言語教育専攻英語コース）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語教育専修科目	基礎科目	Research Methods in Second Language Education 第二言語教育の研究方法	質的、量的研究及び、アクションリサーチの方法を概観し、それぞれの研究方法、目的、長所短所等につき考察する。英語教育の諸分野に関する論文に親しむ中で、研究の対象となる問題を見出し、その問題を解決するために最適と考えられる研究方法を検討する。扱われるトピックには、研究の基盤となる理論の提示の仕方、先行研究の整理の方法、研究の目的・意義についての論述、研究方法の記述、データ分析に基づく結論の導き方等が含まれる。	
		Second Language Teaching Methodology I 第二言語教授法 I	現在行われている語彙、リーディング、文法、ライティング指導の基盤をなす理論と方法を概観する。理論では、学習者はどのように情報を処理し、また習得するか、方法論では教材の開発や活動の考案、評価等に焦点を当てる。学生は、語彙、リーディング、文法、ライティングのいずれかに関し、研究プロジェクトを実施し、学期末にその成果を発表する。	
		Second Language Teaching Methodology II 第二言語教授法 II	現在行われているリスニング、スピーキング指導、及び指導教案の書き方の理論と方法を概観する。理論では、学習者はどのように情報を処理し、また習得するか、方法論では教材の開発や活動の考案、評価等に焦点を当てる。学生はリスニング、スピーキング指導に関し、研究プロジェクトを実施し、学期末にその成果を発表する。	
		Sociolinguistics and Education 社会言語学と教育	社会的要因との関係性という観点から言語の諸相を分析しその特質を明らかにしていく。扱うトピックには、社会言語学の研究課題、研究方法、言語政策、言語帝国主義、ジェンダーと言語、社会言語学と教育等がある。言語使用の社会的性質についての考察を通し、それらが、社会的に個々独自な状況下にある言語教育者、言語学習者にどのような影響を与えているのか等につき、理解を深める。	
		Language and Culture in EFL Education 外国語としての英語教育における言語と文化	外国語として英語を学ぶ環境において、異なる文化が、コミュニケーションや言語表現に与える影響について考察する。文化と言語学習、言語教育との密接な関係性について理解を深めながら、教室で起こりうる文化の相違に基づく問題、文化的観点から適切と考えられる指導法、英語教師の資質としての異文化理解等につき、先行研究文献を参照するとともに、討論を通じて自らの見解を明確にすることを目指す。	
		English for Academic/Professional Purposes (EAP/ESP) 学術・専門分野のための英語	学術・専門分野のための英語（EAP/ESP）に関する諸問題を概観する。例えばその歴史、シラバス・カリキュラム開発、教材作成、学習スキル、ニーズ分析、教授法と評価等につき考察する。学生は、専門分野を英語で学ぶ学習者としての視点から、EAP/ESPの実例を批判的に検討し、独自のEAP/ESP活動例やプログラムを考案する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		Pedagogical English Grammar 言語教育のための英文法	英語教員を目指す大学院生として必要な文法知識を身につけ、一般的な文法指導法に加え、文法をコミュニカティヴなEFL学習に生かすための方法論を学ぶことを目的とする。文法構造とコミュニケーションにおけるその機能を深く理解し、どのようにすれば文法がEFL環境における授業でより効果的に教授され、学習されるかという点について意識を高める。取り上げるトピックには、形態論、意味論、語用論、統語論等がある。	
	専門科目	Syllabus and Curriculum Design シラバス・カリキュラム作成	異なる言語学習環境において、カリキュラムやプログラムを開発、実施していくことに影響を及ぼす主要な要因について理解を深める。それら要因には、学習者の背景、ニーズ、目的と目標、教授内容の選択と配列、教授法、評価と報告等がある。またこれら要因がより広く、TESOLプログラム全体に及ぼす影響についても考察する。	
		Language Testing and Assessment 言語テストと評価	英語教育におけるテストと評価に関する理論と実際の双方について、理解を深めることを目的とする。具体的には、言語テスト理論、テストの種類と機能、バックウォッシュ効果、テストの構成と妥当性、コミュニカティブテスト、最近のテストに関する研究の動向、学習者による自己評価等につき講義、討論する。学生は、講座を通じて得た知識や技術を活かし、実際にテストを作成し、互いに検討する。	
		Technology and Second Language Education テクノロジーと第二言語教育	第二言語教育において、現在利用可能な、また開発が見込まれるテクノロジーについて、その実態と教育への効果的な応用方法について考察する。CALL (Computer Assisted Language Learning)、CMC (Computer Mediated Communication)、Interactive Language Learning Programs、Internet-Based Language Learning等検討の対象は多数ある。理論ばかりでなく、テクノロジーをいかに教育現場において効果的に利用するかという点に力点を置く。	
		Pedagogical Pronunciation 言語教育のための発音	英語の音韻体系を概観し、その効果的な教授法を探る。英語母語話者、或いは能力の高い英語学習者の発話を音声学的に文レベルで分析し、その特質を明らかにしていく。また発音の指導には現在多くの教授法が開発されており、それらにつき見識を深め、創造的で、動機づけを高める発音教授法について考察する。	
		Professional Development for Language Educators 言語教育者のための教師教育と自己開発	言語教育の専門家としての自覚を促し、その能力を磨き続けていくために必要な知識と方法を考察する。扱うトピックには、省察とPDとの関連性、教授や学習に関するビリーフ、PDの実践計画、省察と実践の関係等がある。省察的なリーディングやライティング、議論が求められ、授業見学等も行う。個人レベルにとどまらず、広く国際レベルに及ぶPD活動へ参加し、他の専門家と協同し学び合うというテーマについても言及する。	
		English for Secondary Education 中等英語教育	中等英語教育に特化した、動機づけ、教室管理、教科書、各スキルの指導法等に関する諸問題を明らかにする。それらに対し文献や討論、或いは学習者としての経験から得た知識や実践例から、既存の教材や指導法の改良、或いは新しい方法について検討する。将来中等英語教育に臨む学生に、指導全般に関して十分な知識と技術を身につけさせることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		Academic Writing for Graduate Students 大学院生のための ライティングスキル	アカデミックライティングとは何か、及び、研究の行い方の基礎を学び、論文やリサーチペーパーを書くことのできる能力を養う。扱うトピックには、読み手、ジャンル、論証の仕方、構成法、引用の方法、スタイル等が含まれる。学生は、数本の短い論説文を書く練習をした後、アカデミックライティングのスキル、批判的思考力、分析力を十分に発揮したレポートを執筆し、仕上げとする。	
	演習科目	Practicum in TESOL I 英語教育実践演習Ⅰ	学生は英語教育実践演習Ⅰ及びⅡを同時に履修する。英語教育実践演習Ⅰでは、指導者としての心構え、指導案の作成方法、教室管理、動機づけ技術等を実践的に習得する。学生は習得した知識や技術を、授業参観、セルフアクセスセンターの会話練習施設やライティングセンタースタッフ等の実務を通し、強化、鍛錬することが求められる。また英語教育実践演習Ⅱで実際の授業における指導を経験するが、そのリフレクションも英語教育実践演習Ⅰで行う。	
		Practicum in TESOL II 英語教育実践演習Ⅱ	英語教育実践演習Ⅰで得た理論や技術を、実際に学部の英語授業を担当することにより、応用、実践する。学生は15週間にわたり、指導教員の監督の下、第1期、授業参観、第2期、ティームティーチング、第3期、単独で指導、というスケジュールで、基礎初級レベルの英語コミュニケーションクラスを担当する。学生は学期を通じて指導教員、及び英語教育実践演習Ⅰ担当教員から教室指導全般にわたって助言を得る。	
		Research in TESOL I 英語教育研究演習Ⅰ	修士論文の執筆を目的に、研究トピックを見出し、研究対象として十分にそのトピックを掘り下げ、先行研究の精読と合わせ、研究プロポーザルを書き上げる。プロポーザルには、研究課題、先行研究、研究方法等を含むこととし、英語教育研究演習Ⅱにおいて、実際に研究を実行できる段階にまで準備を整える。	
		Research in TESOL II 英語教育研究演習Ⅱ	英語教育研究演習Ⅰにおいて用意された研究プロポーザルに基づき、指導教員の監督の下、研究を実行し、データ収集、分析を経て、修士論文を書き上げる。研究の途上、直面する問題について、担当教員の指導を受け解決に努める。論文の序論、先行研究サーベイ、研究方法、検討、結論等、各章の執筆についても、担当教員の助言を得つつ進める。	
		Teaching and Learning Project in TESOL 英語指導法教材開発演習	教授や学習に関する研究プロジェクトを企画、遂行し、結果をプレゼンテーションし、リサーチペーパーとしてもまとめる。プロジェクトの例としては、教材開発、教授法評価、カリキュラム開発、ニーズ分析、その他専門性の高い英語教育に関する課題についての調査等があげられる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		（研究指導）	（概要） 第二言語習得、教授法に関わる諸問題に関し、先行研究の精査、研究課題の設定、データ収集、分析、考察等の研究方法を指導し、個々の学生が設定したテーマについて論文指導を行う。 （１．リッチモンド・ストゥループ） 質的、及び量的研究の手法を用い、社会的要因との関連性という観点から、第二言語習得、教授法に関する諸問題に関し、研究指導を行う。 （２．エドウィン・アロイアウ） 第二言語教授法に関する諸問題につき、人間の情報処理理論を背景に、文化的、言語的に多様な学習者に対し、最適な教授法の開発、研究指導を行う。 （３．藤本和子） コミュニカティブな言語教育、学習の場面における文法指導について、効果的な指導法に関し研究指導を行う。 （４．尾崎秀夫） 量的研究の手法を用い、学習者の内面的要素が第二言語習得に与える影響について研究指導を行う。 （５．ラリー・マクドナルド） 第二言語習得、教育における研究方法に関わる諸問題を研究課題とし、研究指導を行う。質的、量的研究手法に加え、アクションリサーチについても研究対象とする。	

問い合わせ先　創価大学教務部大学院係

電　話　０４２－６９１－２２０３
ＦＡＸ　０４２－６９１－９３０３
e-mail　kyoumu@soka.ac.jp